

衛藤利夫 としかづ 圖書館學者、東洋史家。明治十六年十一月、二十四日熊本縣上益城郡飯野村生れ、昭和二十八年七月七日歿（八三—九五）。筆名代々木散人、東田、汀隈生、灯影、木刀子、料斗、藤東田、衛藤東田等。明治四十五年東京帝國大學文科大學政治學選科卒。同大司書を経て満鐵（南滿洲鐵道株式會社）大連圖書館司書となり、大正九年奉天簡易圖書館主事、のち奉天圖書館館長。

譯著書に、モリス・ベーリング著『露國民』（譯、大正二年十一月十日大日本文明協會事務所）、エンゲルベルト・ケムフェル著『長崎より江戸まで』（譯、大正四年七月十五日國民書院）、ニ宅雪嶺著『人生訓』（編、大正四年八月十五日東亞堂書房。縮刷^{ニ宅}『人生訓』

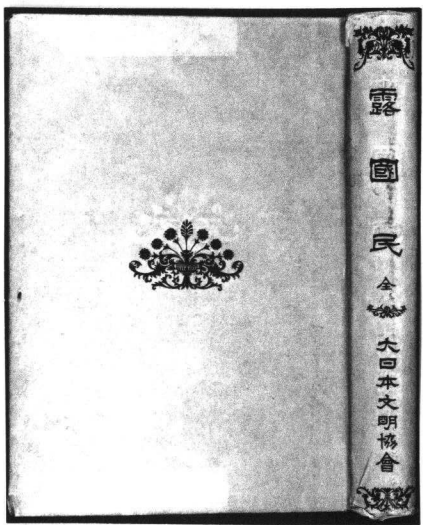
十二年六月十日上田屋出版部）、エミール・ルカ著『戀愛の進化』（譯、大正五年十一月二十五日大日本文明協會事務所。再刊、九年九月九日大日本文明協會、文明書院發賣）、『火を等閑にせば』（譯、大正六年五月二十八日新潮社『トルストイ小説文庫』）、ツルゲーネフ作

『薄倅の少女』（譯、大正七年二月十八日新潮社『エルテル叢書』）、トーマス・セルチエル編『露國十二文象集』（譯、大正八年七月十一日新潮社『世界短篇傑作叢書』）、『圖書分類ノ論理的原則』（大正

十五年五月二十日大阪・間宮商店「圖書館研究叢書」）、『滿洲文化

史上の一插曲—奉天が生んだ世界の詩編』（昭和九年八月序・無刊記

「奉天圖書館叢刊」）、『韃靼』（昭和十二年四月、二十五日大連・滿鐵社



員會「滿鐵社員會叢書」。再刊。七月十日朝日新聞社、正成四年二月

十日中央公論社「中央文庫」()、隆「御製盛京賦」(内題「乾隆御製

「盛京賦」)の就いて「昭和十四年六月十五日奉天・滿鐵鐵道總局「觀

光叢書」()、營業「白瀟の古く國交」(昭和十五年四月十五日奉天・滿鐵

鐵道總局「觀光叢書」()、營業「滿洲夜話」(康徳七年七月二十五日奉天

・吐風書房)、「短繁」(昭和十五年十月十五日大連・滿鐵社員會)。

『蹻靴(東北アジアの歴史と文獻)』(昭和二十一年二月二十日衛藤

利大記念事業會編輯)等。